

医局だより



超緊急帝王切開シミュレーション

お久しぶりです。

猛烈な暑さがシャレにならないほど続いておりますが、夏バテ・夏風邪など体調を崩さずに過ごされておりますでしょうか？

出産は喜ばしい一方でリスクも多い！と常日頃思っていますが、時に一刻を争って児を娩出しなければならない、そんな分娩に直面することがあります。こんな状況下の帝王切開を、超緊急帝王切開、私たちは GradeA と呼びます。

そうそう頻繁にあるものではありません。ただ、稀にしか起こらないため、いざ GradeA が起こると、急げ！と思うあまり当たり前のことを忘れ、ほぼやったことのない仕事を急に任せ、分担がうまくいかず数人で同じ仕事をしている…スムーズにすべてをこなすのは困難です。

手順を見直し、より早く安全に確実に GradeA を行うため、7月2日に GradeA シミュレーションを行いました。産婦人科だけでなく、麻酔科、新生児科、看護スタッフにも協力していただき、手術室も提供していただき、リアルにシミュレーションができました。ご協力いただいたスタッフのみなさんに心より感謝申し上げます。

今回の医局だよりでは、写真をみながら私たちのシミュレーションを振り返ってみたいと思います。



当直中、妊婦が急に異常な腹痛を訴え、胎児心拍数の異常を認めました。当直医が診察し状況を把握し、GradeA 宣言！です。研修医、助産師、看護師が準備を急ぎ各方面へ連絡もしています。



ストレッチャーで手術室へ急いで移動しています。エレベーターもリアルに緊急用で作動させています。総監督、タイムキーパー、録画係…などが後を追いつながら状況を記録しています。



連絡を受けていた手術室はすでに受け入れ準備ができています。待ち時間なしでスムーズに手術室に入れました。



手術準備を進める奥で、新生児科も急いで支度をしています。写真には多くの人が写っていますが、実際に手を動かせる人数は多くありません。役割分担と、無駄のない動きの重要性を感じます。



麻酔科のOKが出て執刀開始したところでシミュレーション終了です。



終了後、一同が会し反省会を行いました。力のこもったパノラマ写真です。

いざ動いてその状況を俯瞰すると、これを忘れていた、GradeA だからこそこれは行うべき、この置き場所は今一度確認しておこう！…と多くの意見が出て非常にためになりました。また、良かった点も多く出ていました。

次回のGradeAシミュレーションは8月に予定しております。今回の反省点を生かして、さらに効率よく確実に動けるように努力しましょう！

麻酔科、新生児科、手術部看護スタッフ、産婦人科病棟看護スタッフ、その他各方面のみなさま、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

2018年7月26日

文責：廣瀬 明日香